NPO在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワーク　　第19回全国の集いｉｎ新潟2013　　文責　大会長　黒岩卓夫

（平成25年8月13日現在）

2013年9月23日（月）大会第2日目

時間＼会場	ホテル日航新潟「朱鷺」	メインホール	201A	201B
イスのみ		1000	120	120
机あり	90	700	84	84
8:00	NPO総会			
9:00〜11:35	≪理事会企画≫ 認知症ケアのゆくえ ～認知症の人を地域･多職種で支えるために～ 【司会】中島久矩 【講演】翁川純尚 在宅ケアを支えるのは、今や多職種だけでなく、地域に根ざす団体やNPOそして市民一人ひとりが関わっています。 このシンポでは厚労省のオレンジプランに沿って、大阪生野区、世田谷区の実験さらにBPSDの発生頻度の調査の報告のもと、意見交換が行われます。 今後の方向を共に語り合いましょう。	≪市民枠≫ 「人と人とのつながりから広がる安心社会」 ～地域の茶の間づくりの実践から～ 【座長】河田珪子 【講演】上野千鶴子 地域のお茶の間、多様な居場所が遼原の火のごとく広がっています。 そこへ上野千鶴子さんが飛びこんできました。しかも「おひとりさまの老後」をひっさげて、半ば自然発生的ともいえる人と人とのつながりの「お茶の間」へ。 “おひとりさま”がどう切り結ぶのでしょうか。後半のシンポは、小笠原文雄先生と上野さんとのやりとりの著書を下敷にして進めます。	≪シンポジウム≫ 地域医師会の取り組みと行政との連携 【座長】吉沢浩志 在宅医療を進めていく上での課題は ①かかりつけ医の積極的参加 ②24時間対応の支援体制 ③医療・看護と介護・福祉の連携 ④住民への啓発を具体的テーマとして、地域医師会も行政とも連携して取組んで行きたい。 地域医師会の多様な立場からの声を聞いてみよう。	≪公開事例検討会≫ 認知症の人の自律のために ～認知症医療とケアの“倫理”という視点～ 【座長】稲葉一人 【コメンテーター】 箕岡真子 認知症者への倫理といった一般的内容を語るのではなく、会場で具体的事例を聴き、倫理問題に気付き、いかに対応したらよいのかを、視点の異なる立場から解決する過程を、会場の皆さんと共有したいと思います。 皆さん一人ひとりに課された大きなテーマではないでしょか？
11:50〜12:50	~~ランチョンセミナー~~ ホテル日航新潟での飲食のお持込はできません お弁当は他の会場でお召し上がり下さい	映画 うちの実家２０１２	ランチョンセミナー 「こころの世界遺産をつくるために ～佐渡島からの提案～」 －漂流する認知症の現場に北極星を語る－ 演者：森本芳典 （汐彩ｸﾘﾆｯｸ院長） （新潟県認知症ｻﾎﾟｰﾄ医）	ランチョンセミナー 楽なように やりたいように 後悔しないように 演者：永井康徳 （医療法人ゆうの森たんぽぽｸﾘﾆｯｸ理事長）
13:00〜15:30	≪理事会企画≫ 地域を再生･共創する ～我々は地域と共にある、地域が変われば我々も変わる～ 【座長】長縄伸幸 【座長】桑原由次 このシンポは、NPO全国ネット理事会の企画です。「地域包括ケアシステムの構築推進」が国の責務(法的根拠あり）と規定した上で、それを推進する表と裏を明らかにし、深刻な社会問題(虐待、閉じこもり、貧困など)をも包括してのシステムでなければならない。地域のケアの関係ができれば、我々も人も変わる。 政策、制度、問題点を冷静に見つめたいものです。	≪市民枠≫ 地域の茶の間・大交流会 【座長】河田珪子 上野千鶴子さん登場のお茶の間基調シンポに続いて、現実に「お茶の間」にかかわっている人たちのシンポです。 「いきいきサロン」 「地域の茶の間」 「ふれあいの居場所」 「縁側」 「たまり場」 「コミュニティカフェ」 など、 思い思いの地域の絆の再生に取組んでいます。 あなたの「茶の間」はどうなっているでしょうか。	≪シンポジウム≫ 地域包括医療の確立のために ～いかに病院と連携してい 【座長】五十嵐謙一 【座長】阿部行宏 安心して暮せる地域とは、それには幾つかの条件が必要ですが、こと医療に関しては、24時間訪問できる在宅医(診療所)と24時間入院を受入れる地域の中小病院の存在がお互いに信頼できる連携をつくることだと思います。 この関係をさらに豊かにするには、地域の多様な資源が必要です。 病院との連携を多角的に討論します。 病院と診療所の役割分担をはっきりさせましょう。	≪シンポジウム≫ 災害と在宅ケア 【座長】小山 剛 災害と福祉。その福祉(医療)は突然訪れる非日常の生活に有効でなければならない。 これを阪神淡路･新潟県中越･東日本大震災での取組み経験をもとに、まだ生々しい現状感を伝えるなかで、日常の準備のあり方まで議論したいシンポです。 この筋のエキスパートである小山剛さんがコーディネートします。 佐久病院をやめ、石巻の仮設診療所の長純一さんも発言します。
15:40〜16:00				

時間＼会場	203＋204	301A	301B	302A
イスのみ	80	120	120	120
机あり	63	84	84	84
8:00				
9:00〜11:35	≪シンポジウム≫ 在宅医療連携拠点事業を今後の在宅医療の充実にどうつなげるか？ 【座長】本田雅浩 “在宅医療連携拠点”づくりを厚労省から提起されたことは高く評価すべきと思います。 平成24年度に105ヶ所の拠点事業が指定され、それぞれが地域に根ざしたユニークな拠点を試作しました。 その中から6ヶ所が選ばれ今大会で発表されます。 想定できなかったことがたくさん提案されることに気付くと思います。	≪シンポジウム≫ 障がい者の「ケア」を受ける立場から、「自立」への道を探る 【座長】黒岩秩子 障がい者へのケアは、自立支援法が成立して、どのように変わったのでしょうか。 このシンポでは、障がい者自身がその実像を語ってくれます。生の声です。 有名な浦河べてるの家から、南魚沼市のグループホームひまわりから、またそれに加えて女性の立場からの発言もあります。会場であなたも感動の場を共有して下さい。	≪シンポジウム≫ 「咀嚼」が看護・介護で求められている 【座長】荒井節男 このシンポは、歯科の先生方が真心をこめたすばらしいシンポです。 “口から食べる”という当たり前のことを、原理的かつアイデア・工夫にあふれた具体的な実践を提示してくれます。 さらに医科･歯科･言語聴覚士の連携がいかに成果を挙げているかを見せてくれます。 加藤武彦先生の生涯をかけた姿をみて下さい。	≪シンポジウム≫ 介護予防を考える 【座長】上村伯人 【講演】鈴木隆雄 介護予防と一言で言っても、その重要性やまた困難性も理解できないと思います。 このシンポの基調講演の鈴木隆雄さんは、人の老いの段階を、歩く、しゃべる、食べるが障がいを受けることと簡潔に規定しています。 歩けなくなるだけで、どれだけ人間として生きて行くことへの打撃であるか、皆さんが一番よく知っています。
11:50〜12:50	ランチョンセミナー	ランチョンセミナー 日本人のいのち観と ｽﾋﾟﾘﾁｭｱﾙｹｱ 演者：大下　大圓 飛騨千光寺住職 京都大学大学院　医学研究科非常勤講師	ランチョンセミナー 良寛の最晩年に咲いた 大輪の愛の華 演者：柳本雄司 新潟良寛会会長	ランチョンセミナー 天上の音楽 ～音楽を通じた心と魂のケア～ 演者：塚田　裕子 （在宅ｹｱｸﾘﾆｯｸ川岸町院長） 演者：AYAKI（ピアニスト） 演者：日比野　愛子（ソプラノ）
13:00〜15:30	≪シンポジウム≫ 延命・胃ろうについて考える 【座長】揚石義夫 【講演】高橋 泰 現在“胃ろう”が注目されているのは、医療・介護の現実的課題であり、特に認知症者や家族にとって、どう考え利用したらよいのか、大きな迷いのなかにあります。 このシンポは、こうしたわが国の大きな社会問題や日本人の死生観をふまえて、「老人医学会のガイドライン」を俎上にして冷静な検討と意見交換をしたいと思います。 石飛さんのメッセージも無視できませんね。	≪シンポジウム≫ 仏教ホスピスビハーラと日本的ケアについて 【座長】黒岩卓夫 ホスピス･ビハーラ･緩和ケアとその表現には長く重い歴史があり、人の死(生)をつきつめるなかでの苦悩、あるいは予期せぬ生への満足感が生まれます。 その段階での人のケアをどうしたらよいのかを、日本的ケアの源淵を求めて話し合いたいと思います。 仏教ホスピスの草分けの長岡西病院の実践を土台として・・・。 「納棺夫日記」おくり人の青木新門さんの発言もあります。	≪シンポジウム≫ 新潟水俣病事件 ～いのちと生活を支える在宅ケアの立場から考え 【座長】高見優 座長の思いは、今回の福島第一原発の大事故により、目にみえない放射能被爆から、国が安全という根拠が、いかに薄弱なものであるかの怒りから、今でも解決(医学的にも社会的にも)していない水俣病(工業化･近代化の犠牲)をテーマにすることになりました。 私たちはここに改めて新潟水俣病に関心をもちたいと思います。	≪シンポジウム≫ 住民とともに育てる多職種連携 ―地域医療「魚沼学校」― 【座長】井口清太郎 【座長】吉嶺文俊 住民参加、ときには住民主体で地域医療をつくって行こうという動きは古くからもありますが、最近の“地域医療の危機”から、新たな運動が生まれています。 その先駆的な例を紹介し、とくに今大会の地元で展開されている「地域医療魚沼学校」を紹介したい。 同時に千葉県のNPO地域医療を育てる会、岡山県のNPOきらめき広場も紹介されます。
15:40〜16:00				

時間＼会場	302B	303+304	305	306＋307	国際会議室
イスのみ	120	80	40	80	548
机あり	84	63	27	63	230
8:00					
9:00〜11:35	≪シンポジウム≫ 退院から終末期まで ～人生の様々なステージにおけるリハビリテーションの役割～ 【座長】三村 健 【座長】山田小百合 このシンポはリハビリ専門職の皆さんが企画したものです。 人生の様々なステージでのリハビリとは、生涯を通して人に希望を与えるともいえます。 その名の通り、このシンポでは、回復期病棟･在宅･生活期･終末期の立場からの発言があります。リハビリ専門職一人ひとりの視野の広さも期待されるところです。	≪シンポジウム≫ 早期退院、入院予防 在宅生活継続におけるマネジメント 【座長】枝村和枝 介護保険制度の神経系統、あるいは医療で言えば治療にあたるケアプランの立案者、ケアマネジャーのつくった企画です。 この神経系統に肉付けする、ケアマネジャーを取巻く多職種からの発言があります。またこれまでケアマネジャーは、私たちの期待にどのように応えているでしょうか。改めて自分の目で確かめてみたいものです。	≪シンポジウム≫ 医学教育フィールドとしての在宅医療 【座長】井口清太郎 在宅医療は、医療であり、急性期病院医療の対極にあって、両者併立してはじめて地域の医療が生命力を発揮する。 とすれば、学生の医学教育、卒後教育の中で、どのようにカリキュラム化され、かつ学生が興味をもっているのか。教育研修の現場からの発言をきける貴重なチャンスです。 ぜひあなたも一言を！	≪シンポジウム≫ 多職種による在宅患者のバイタルチェックとその情報共有 【座長】金井秀樹 在宅利用者のサービスの現場でのバイタルチェックの必要性、バイタルチェックを媒介として多職種間の情報の交流をはかることを議論し、ネットワークの再構築に寄与したい。 たかがバイタルチェックではなく、連携の要に変身することも可能ではないか。 バイタルチェックの意味とあり方を考え直そう。	≪シンポジウム≫ 看取り ～癌末期だからこそ、安らかで豊かな死を迎えたい～ 【座長】福田喜一 短い癌末期の時間を,凝集された最も人間的な,かつ生涯を讃えられる生きた時間にすることは可能ではないか。このシンポジストたちの多様性と経験の豊かさから深い発言が期待される。誰しも生から死、そして死後の世界に無関心ではありえません。豊かな死はいかにして迎えることができるのか。自分の問題としても考えてほしいと思います。
11:50〜12:50	ランチョンセミナー ﾀｰﾐﾅﾙ期を支えるﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝとｹｱ ～QOLの向こうにあるもの～ 演者：小林修 （よこた福祉会ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰにこにこ）	ランチョンセミナー 「自分らしく生きて、自分らしく逝く」 ～ｻｰﾋﾞｽ付き高齢者向け住宅「やさしえ上越」での医療・看護・介護が連携した「お看取り」のｹｰｽから～ 演者：瀧澤久美子 (やさしい手上越居宅介護支援事業所 ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ管理者)	ランチョンセミナー 介護従事者向け血液検査の話 演者：伊藤啓太 （株式会社ｱﾙﾌﾟ　長岡ﾗﾎﾞﾗﾄﾘｰ所長）	ランチョンセミナー 『歯科大学における在宅医療への関り』 演者：白野美和 （日本歯科大学新潟病院 総合診療科　在宅歯科往診ｹｱﾁｰﾑ）	ランチョンセミナー 「平穏死」という言葉が生まれたわけ 演者：石飛幸三 （特別養護老人ﾎｰﾑ「芦花ﾎｰﾑ」医師）
13:00〜15:30	≪シンポジウム≫ 都市型在宅医療について 【座長】斎藤忠雄 【講演】堂垂伸治 私たちは先を冷静に見なければならない。 2025年には団塊の世代が75歳に達する。 2030年には47万人の「死に場所がなくなる」と行政が叫んでいる。 今さらという観もあるが、この波が大都市に集中することをふまえ、本気でひとりひとりのあるいは家族の「居場所」をさがし求めねばならない。それは本当だろうか？ そのモデル的作業は、自然発生的にも生まれつつある。	≪シンポジウム≫ 全国に先駆けて始動した新潟の在宅栄養ケア活動を検証する 【座長】小池雅子 【講演】牧野令子 新潟県栄養士会は、在宅栄養ケア活動の第一歩として、平成24年度厚労省補助事業である「栄養ケア活動支援整備事業」を活用し、在宅療養者への栄養ケア活動を開始した。このなかで潜在栄養士の発掘、人材育成や他の資源と連携し、地域に活動を広げてきた。 その成果をここに紹介したい。そして食べることができなくても、生きて行く手段はあることを改めて提示したい。	≪シンポジウム≫ 精神科医はアウトリーチの夢を見るか ～多職種協働の壁を超えて～ 【座長】今村達弥 このシンポは精神科、精神科医の立場から地域の生活者との新たな関係のあり方が提案され、話し合いがもたれます。 精神科の往診(アウトリーチ）すら新鮮な行為であり、さらにACTとは何か、構造構成学とは何か興味に尽きません。高齢者の認知症ケアに直面している私たちに、新たな行動指針が提示されるかも知れません。	≪シンポジウム≫ 看護職の役割 ～それぞれの看護領域のシームレスな連携を目指して～ 【座長】姉﨑ミツエ 【コメンテーター】 石飛幸三 医療介護の世界の中で、どのサービス(事業）にも看護職が制度的にもまた実質的にも必須になっている現状をまず見つめていただきたい。 看護職の存在の大きさと同時にケアだけでなく各サービスとの連携の役割を果たしていただきたいとの要望も強い。 このシンポではこうした大きな期待に応えて、平穏死で有名な石飛先生が登場する。 忌憚ないすてきな発言を期待したい。	≪シンポジウム≫ 未来を拓く介護の現場 【座長】宮崎則男 このシンポは、介護福祉士の皆さんが企画したものである。障がいをもって生きる人たちは、家族と介護提供者の力によって生活をしている。 その生活者の健康が損われたとき、医療が必要となる。 障がいをもった生活者を中心的に支える皆さんの日々の努力から包括ケアシステムへの思いを語ってもらう。 介護の主人公の発言を聞いてみたい。
15:40〜16:00					閉会式